



Red Hat Enterprise Linux for SAP Solutions 8

RHEL for SAP サブスクリプションおよびリポジ
トリー

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、RHEL for SAP サブスクリプションおよびリポジトリに関する情報を提供します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	4
第1章 概要	5
第2章 RHEL FOR SAP APPLICATIONS または RHEL FOR SAP SOLUTIONS サブスクリプションの有効化 ...	7
2.1. 既存のサブスクリプションの割り当て解除 (すでに登録されているシステムのみ)	7
2.2. RHEL FOR SAP APPLICATIONS または RHEL FOR SAP SOLUTIONS サブスクリプションの割り当て	7
第3章 必要なリポジトリの有効化	9
3.1. SAP NETWEAVER/SAP ABAP APPLICATION PLATFORM	9
3.2. SAP HANA (SAP NETWEAVER/SAP ABAP APPLICATION PLATFORM の有無を問わない)	10
第4章 関連情報	12

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメントにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。多様性を受け入れる用語に変更する取り組みの詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見や感想をお寄せください。また、改善点があればお知らせください。

特定の文章に関するコメントの送信

1. **Multi-page HTML** 形式でドキュメントを表示し、ページが完全にロードされてから右上隅に **Feedback** ボタンが表示されていることを確認します。
2. カーソルを使用して、コメントを追加するテキスト部分を強調表示します。
3. 強調表示されたテキストの近くに表示される **Add Feedback** ボタンをクリックします。
4. フィードバックを追加し、**Submit** をクリックします。

第1章 概要

[RHEL for SAP Applications](#) または [RHEL for SAP Solutions](#) サブスクリプションは、追加の RPM パッケージを含む追加の RHEL リポジトリを提供します。これらの追加パッケージは、S/4HANA、SAP HANA、SAP NetWeaver ベースの SAP 製品 (ERP や CRM) などの SAP アプリケーションを RHEL 上で実行するために、および [S/4HANA](#)、[SAP HANA](#)、[SAP NetWeaver を管理するための HA ソリューション](#) など、SAP 向けに Red Hat が提供する機能を使用するために必要なものです。

Red Hat は、新しい RHEL マイナーリリースを 6 カ月ごとに提供します。特定の RHEL マイナーリリースについて報告された問題の修正が、後続の RHEL マイナーリリースのいずれかに含まれるパッケージで利用できる場合があります。

特定の RHEL マイナーリリースでシステムを 6 カ月以上維持する必要があるお客様向けに、Red Hat は Red Hat Enterprise Linux 延長メンテナンスを [延長更新サポート \(EUS\)](#) アドオン、または [Update Services for SAP Solutions \(E4S\)](#) として提供しています。これらのリポジトリは、対応する RHEL マイナーリリースのリリース後に、最大 2 年間 (EUS) または 4 年間 (E4S) にわたって重要な修正を受けます。EUS リポジトリおよび E4S リポジトリは、特定の RHEL マイナーリリースでのみ利用できます。RHEL リリーススケジュールの詳細は、[Red Hat Enterprise Linux のライフサイクル](#) ページを参照してください。

SAP NetWeaver/SAP ABAP Application Platform は、RHEL メジャーリリース (RHEL 9 など) ごとに SAP によって検証されるため、対応する RHEL メジャーリリース (9.0、9.1、9.2 など) で検証されれば、どの RHEL マイナーリリースでも実行できます。

一方、SAP HANA は、特定の RHEL マイナーリリース (通常は E4S リポジトリが利用可能な RHEL マイナーリリース) に対してのみ検証されます。

このドキュメントでは、以下について説明します。

- [RHEL for SAP Applications](#) サブスクリプションまたは [RHEL for SAP Solutions](#) サブスクリプションを使用するために RHEL システムを登録する手順
- SAP 製品と RHEL リリースの組み合わせに基づいて有効にする必要のあるリポジトリの概要
- リポジトリを有効にする手順



注記

- 使用する予定の SAP 製品が、使用する予定の RHEL リリースでサポートされているかどうかを、SAP およびハードウェアパートナーまたはインフラストラクチャプロバイダーに必ず確認してください。
- EUS または E4S リポジトリを使用する場合は、目的の RHEL マイナーリリースよりも後のリリースにシステムが更新されないように、サブスクリプションマネージャーを介して対象の RHEL マイナーリリースを設定する必要があります。
- このドキュメントは、オンプレミスシステムと、Red Hat Subscription Manager (RHSM) を使用するパブリッククラウドプラットフォーム上の "Bring Your Own Subscription" (BYOS) システムにのみ適用されます。
- このドキュメントは、パブリッククラウドプラットフォームで [RHUI](#) を使用する pay as you go (PAYG) インスタンスには適用されません。PAYG イメージの場合、リポジトリはプリインストールされた RHUI クライアント rpm によって定義され、手動で設定することはできません。HA および米国のサブスクリプションを使用する RHEL for SAP Solutions の場合、AppStream、BaseOS、High Availability、SAP NetWeaver および SAP Solutions の仮想マシンに、次の E4S リポジトリが存在します。RHEL for SAP Applications サブスクリプションでは、AppStream、BaseOS、および SAP NetWeaver の仮想マシンに次の EUS リポジトリが存在します。7.9、8.10、9.10 など、特定のメジャーリリースの最後のマイナーリリースでは、非 EUS/E4S リポジトリは、RHEL for SAP Solutions with HA および US、Common、Extras、High Availability、SAP、SAP HANA および Server、および RHEL for SAP Applications: Common、Extras、SAP、および Server になります。すべてのクラウドプロバイダーには、カスタムクラウド固有のリポジトリもあります。

第2章 RHEL FOR SAP APPLICATIONS または RHEL FOR SAP SOLUTIONS サブスクリプションの有効化

SAP NetWeaver アプリケーションサーバーを実行する場合に、RHEL システムを特定の RHEL 9 マイナーリリースにロックする必要がない場合は、RHEL for SAP Applications サブスクリプションを使用できます。

SAP HANA と同じ RHEL 9 マイナーリリースに関連付ける必要がある SAP HANA、SAP NetWeaver、または S/4HANA アプリケーションサーバーを実行するには、[Update Services for SAP Solutions \(E4S\)](#) にアクセスするために次のサブスクリプションのいずれかが必要です。

- x86_64 プラットフォームの場合: [Red Hat Enterprise Linux for SAP Solutions](#)
- PowerPC Little Endian (ppc64le) プラットフォームの場合: [Red Hat Enterprise Linux for SAP Solutions for Power, LE](#)

2.1. 既存のサブスクリプションの割り当て解除 (すでに登録されているシステムのみ)

SAP システムが以前に別の RHEL サブスクリプションを使用して登録されている場合は、次の手順を実行します。

1. システムが現在サブスクライブしているサブスクリプションのシリアル番号を確認します。

```
# subscription-manager list --consumed | \
awk 'Subscription Name:||
/Serial:||
/Pool ID:||
/Service Type:/{print}
/Service Level:/{printf ("%s\n\n", $0)}'
```

2. 次のコマンドを使用して、システムからサブスクリプションを削除します。文字列 **<SERIAL>** は、前のコマンドの出力に示されているシリアル番号に置き換えます。

```
# subscription-manager remove --serial=<SERIAL>
```

2.2. RHEL FOR SAP APPLICATIONS または RHEL FOR SAP SOLUTIONS サブスクリプションの割り当て

[RHEL for SAP Applications](#) サブスクリプションまたは [RHEL for SAP Solutions](#) サブスクリプションを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. サブスクリプションのプール ID を確認します。

```
# subscription-manager list --available --matches='RHEL for SAP*' | \
awk 'Subscription Name:||
/Pool ID:||
/Service Type:/{print}
/Service Level:/{printf ("%s\n\n", $0)}'
```

2. 以下のコマンドを使用して、サブスクリプションをシステムに割り当てます。文字列 **<POOL_ID>** は、前のコマンドの出力に示されている実際のプール ID (またはプール ID の 1 つ) に置き換えます。

```
# subscription-manager attach --pool=<POOL_ID>
```

第3章 必要なリポジトリの有効化

前章の説明に従ってシステムを [RHEL for SAP Applications](#) サブスクリプションまたは [RHEL for SAP Solutions](#) サブスクリプションに登録すると、適切なリポジトリを有効にして、必要なパッケージをすべてインストールできるようになります。

3.1. SAP NETWEAVER/SAP ABAP APPLICATION PLATFORM

RHEL 9 の SAP NetWeaver/SAP ABAP Application Platform の場合は、以下のリポジトリセットのいずれかを有効にします。

プラットフォーム	リポジトリ ID (通常)	リポジトリ ID (eus)	リポジトリ ID (e4s)
x86_64	rhel-8-for-x86_64-baseos-rpms rhel-8-for-x86_64-appstream-rpms rhel-8-for-x86_64-sap-netweaver-rpms rhel-8-for-x86_64-highavailability-rpms (#)	rhel-8-for-x86_64-baseos-eus-rpms rhel-8-for-x86_64-appstream-eus-rpms rhel-8-for-x86_64-sap-netweaver-eus-rpms rhel-8-for-x86_64-highavailability-eus-rpms (#)	rhel-8-for-x86_64-baseos-e4s-rpms rhel-8-for-x86_64-appstream-e4s-rpms rhel-8-for-x86_64-sap-netweaver-e4s-rpms rhel-8-for-x86_64-highavailability-e4s-rpms (#)
ppc64le	rhel-8-for-ppc64le-baseos-rpms rhel-8-for-ppc64le-appstream-rpms rhel-8-for-ppc64le-sap-netweaver-rpms rhel-8-for-ppc64le-highavailability-rpms (#)	rhel-8-for-ppc64le-baseos-eus-rpms rhel-8-for-ppc64le-appstream-eus-rpms rhel-8-for-ppc64le-sap-netweaver-eus-rpms rhel-8-for-ppc64le-highavailability-eus-rpms (#)	rhel-8-for-ppc64le-baseos-e4s-rpms rhel-8-for-ppc64le-appstream-e4s-rpms rhel-8-for-ppc64le-sap-netweaver-e4s-rpms rhel-8-for-ppc64le-highavailability-e4s-rpms (#)
s390x	rhel-8-for-s390x-baseos-rpms rhel-8-for-s390x-appstream-rpms rhel-8-for-s390x-sap-netweaver-rpms rhel-8-for-s390x-highavailability-rpms (#)	rhel-8-for-s390x-baseos-eus-rpms rhel-8-for-s390x-appstream-eus-rpms rhel-8-for-s390x-sap-netweaver-eus-rpms rhel-8-for-s390x-highavailability-eus-rpms (#)	-

(#) このリポジトリは、[Red Hat HA solutions for SAP](#) のいずれかを使用する場合にのみ必要です。



注記

- RHEL 8 は ppc64 (IBM POWER、Big Endian) プラットフォームではサポートされません。
- リポジトリの EUS または E4S バリエーションを使用するには、RHEL 9 マイナーリリースを subscription-manager 経由で設定する必要があります。
- s390x プラットフォーム用の RHEL 9 E4S リポジトリはありません。
- リポジトリの "通常"、"EUS"、および "E4S" バリエーションは、同時に有効にすることはできません。これらは同じパッケージの異なるバージョンを提供し、パッケージのインストールまたは更新時にパッケージバージョンの競合が発生するためです。

RHEL 9 で SAP NetWeaver/SAP ABAP Application Platform の通常のリポジトリを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos \
--disable="*" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-baseos-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-appstream-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-sap-netweaver-rpms"
```

[Red Hat HA solutions for SAP](#) のいずれかを使用する場合に、RHEL 9 (EUS リポジトリが利用可能な RHEL 9 マイナーリリース) 上で SAP NetWeaver/SAP ABAP Application Platform の EUS リポジトリを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos \
--disable="*" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-baseos-eus-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-appstream-eus-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-sap-netweaver-eus-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-highavailability-eus-rpms"
```

3.2. SAP HANA (SAP NETWEAVER/SAP ABAP APPLICATION PLATFORM の有無を問わない)

RHEL 9 の SAP HANA の場合、以下のリポジトリを有効にします (sap-netweaver リポジトリの有効化は SAP HANA のみのシステムには必要ありませんが、簡素化や柔軟性の向上のために、どのような場合でも有効にすることが推奨されます)。

プラットフォーム	レポジトリ ID
x86_64	rhel-8-for-x86_64-baseos-e4s-rpms
	rhel-8-for-x86_64-appstream-e4s-rpms
	rhel-8-for-x86_64-sap-solutions-e4s-rpms
	rhel-8-for-x86_64-sap-netweaver-e4s-rpms
	rhel-8-for-x86_64-highavailability-e4s-rpms (#)

プラットフォーム	レポジトリ ID
ppc64le	rhel-8-for-ppc64le-baseos-e4s-rpms
	rhel-8-for-ppc64le-appstream-e4s-rpms
	rhel-8-for-ppc64le-sap-solutions-e4s-rpms
	rhel-8-for-ppc64le-sap-netweaver-e4s-rpms
	rhel-8-for-ppc64le-highavailability-e4s-rpms (#)

(#) このリポジトリは、[Red Hat HA solutions for SAP](#) のいずれかを使用する場合にのみ必要です。



注記

- SAP HANA は、s390x (IBM System Z) プラットフォームではサポートされません。
- リポジトリの E4S バリエーションを使用するには、RHEL 9 マイナーリリースを subscription-manager 経由で設定する必要があります。
- RHEL 8.1 E4S のサポートは [2023 年 11 月 30 日終了](#)

RHEL 9.0 システムにリリースロックを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager release --set=8.2
```

(E4S リポジトリが利用可能な RHEL 9 マイナーリリースの場合に) RHEL 9 システムで SAP HANA の正しいリポジトリを有効にするには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos \
--disable="*" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-baseos-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-appstream-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-sap-solutions-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-sap-netweaver-e4s-rpms"
```

[Red Hat HA solutions for SAP](#) のいずれかを使用する場合に、RHEL 9 システム (E4S リポジトリが利用可能な RHEL 9 マイナーリリース) 上で SAP HANA の正しいリポジトリを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos \
--disable="*" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-baseos-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-appstream-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-sap-solutions-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-sap-netweaver-e4s-rpms" \
--enable="rhel-8-for-$(uname -m)-highavailability-e4s-rpms"
```

第4章 関連情報

- [RHEL およびその他の Red Hat 製品に関する SAP 製品のドキュメントはどこにありますか？](#)
- [システムを Red Hat Enterprise Linux の特定の更新に関連付ける方法](#)
- [SAP 環境を RHEL 7 から RHEL 8 にインプレースアップグレードする方法](#)
- [SAP HANA、S/4HANA および NetWeaver ベースの SAP アプリケーション向け Red Hat HA ソリューション](#)